

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Comparative cost-effectiveness of policy instruments for reducing the global burden of alcohol, tobacco and illicit drug use. 世界全体のアルコール・タバコ・違法ドラッグによる損失を防ぐ方策の費用対効果分析の地域間比較を可能にする方法</p>	
執筆者	
Chisholm D, Doran C, Shibuya K, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Rev. 2006 Nov;25(6):553-65. Review.	
キーワード	
アルコール、タバコ、違法ドラッグ、政策、費用対効果	
要 旨	
<p>アルコール・タバコ・違法ドラッグの使用は世界中の公衆衛生にとって重要で困難な問題である。本総説の目的は、これまでに世界各地域から報告されている知見を用いて、これらの薬物に対する介入と疾病予防効果を検証し、介入の費用対効果を総括することである。既報の費用対効果研究は数多く存在する。しかしながら、世界のある地域全体に何らかの方策を打ち出すために利用するには、方法論の相違、基準群の設定法の相違、ある特殊な状況から得られたための非普遍性など多くの問題がある。そこで、普遍性のある費用対効果分析の方法が提唱され、それにより、ある特定の疾患や危険因子についての地域間の比較のみならず、異なる疾患や危険因子間の危険度の比較も可能になった。この普遍的な費用対効果分析法を、習慣性薬物使用による損失を減少させるための個人レベルおよび集団レベルの介入に適応する方法を概説する。このような新しい手法によって従来の問題点を解決し、それを基にして重要な政策問題を検討することが出来るようになったが、依然として集団レベルでの分析、特に世界全地域での分析には問題点が残されており、この総説の最終章で詳述する。</p> <p>(報告者注) 上記要旨に記されたとおり、解析方法論についての総説である。本文中にはアルコール・タバコ・違法ドラッグの世界レベルでの影響を障害調整生命年 (DALY; disability-adjusted life-years) という概念で示している。</p>	